

横浜食肉市場ミート・フェアが開催されました

第37回横浜食肉市場ミート・フェアが、4月11日（金）に開催されました。今回は、全国から和牛の部に123頭、交雑種（乳牛の雌に和牛の雄を交配した雑種）の部に69頭、合計で192頭が出品されました。当所から、普及指導課職員が審査員として出席し、これらの出品牛を審査しました。

県内からは、和牛の部に6頭、交雑種の部に5頭、合計11頭が出品され、残念ながら入賞はありませんでしたが、セリでは高値で取引されており、肥育技術の高さが伺われました。

冷蔵庫の中に整然と並ぶ枝肉は壮観で、枝肉の構成、枝肉重量、ロース芯面積、サシの入り、脂の質など全てにおいて素晴らしく、各生産者の特徴が出ており、出品に対する意気込みが感じられました。

和牛の部では、島根県の生産者が出品した去勢牛が名誉賞、交雑種の部では北海道の生産者の雌牛が最優秀賞に選ばれました。

今年は特に、和牛で高いレベルで揃った同一生産者の枝肉の出品があるなど、飼養管理技術の向上が感じられました。

肉牛肥育経営は、依然として飼料価格の高止まり、枝肉価格の横ばい状況が継続し、厳しい状況にあります。

当所は、今回の結果も踏まえ県内の肉牛生産者が安心して経営を継続していけるよう、日頃の飼養管理技術向上等、生産基盤の強化を支援していきます。



和牛名誉賞の枝肉断面



出品枝肉